

樹木医に認定されて

— 指定名木の診断調査概要について —

(財) 大分県緑化センター樹木医 荒木 大介

1. はじめに

近年、社会経済の発展はめざましく、都市化の進展など、われわれの生活環境にさまざまな影響を及ぼした。特に最近の一般市民の意識は価値観の多様化や、自然とのふれあいを大切にする傾向にある。

なかでも、貴重なみどり遺産である老齢・古木に対する関心は高まっている、各種の指定木・保護樹木のうち、今回大分市の指定名木を調査、診断する機会を得調査をとりまとめたので、その概要を報告する。

2. 調査と方法

調査対象は、大分市指定名木 58 個体である、それぞれ指定木ごとに次のような現地調査を実施した。(1)生立地の環境について、周囲の環境見取図の作成、建造物と施設、樹木の配置、根元部分の踏圧、地下水系等障害因子の調査、(2)土壤条件については、地質図を参考に地形を含めて、土壤試掘による調査と併せて根系調査を行った。(3)樹木測定、幹周は根元部及び 1.5m の位置をテープにより測定、樹高はブルーメライスを使用して測定した、樹齢については、管理者等からの聞きとり過去の数値によって推定樹齢とした。(4)診断、この調査の最も重要な調査事項で今後の樹木保全上必要な調査である、樹勢について、根、樹幹、支幹、枝、葉の状況を 5 段階に区分調査表とした。(参考、酸性雨モニタリング調査表)

次ぎに治療等の処置の必要性について調査した。この調査にあたって、樹木管理者等の立会のもと過去の管理状況と今後の維持管理の取り組みなど聞きとり調査した。

3. 調査木の生立する周辺の概況

調査対象木は、大分市内に点在するがそのほとんどは神社、仏閣の境内地で全体のうち 44 本 76 % を占めている。次いで屋敷内が 9 本 15 %、その他（公園、学校）となっている。社寺境内地では建造物に並んで

ったり広場の中に生立したりで、人々とのかかわりが最も強く、特に根系の踏圧害が大きい。社寺境内で鎮守の森的な場所が 14 本あり相観によるだけでも樹勢の良いことが明確である。

4. 調査対象樹種について

名木指定樹種の内訳は、常緑針葉樹が 33 本 (57 %)、スギ 4、イヌマキ 4、クスノキ 6、カヤ・イチイガシ・ウスギモクセイ・タブノキ・ソテツ・各 2 本、モッコク・ホルトノキ・モミノキ・ユーカリ・サザンカ・カゴノキ・アラカシ・ナツカボス・クロガネモチが各 1 本。

落葉広葉樹は、25 本で (43 %) 最も多いのがムクノキ 12 本、イチョウ 5 本、ウメ・ケヤキ・エノキが各 2 本、クワ・フジが各 1 本となっている。

樹齢については明確でないが推定樹齢で見ると 100 年以下 2、101~200 年が 8、201~300 年 18、301~500 年で 21、501 年以上が 9 本となり、特定な樹木を除けば 200 年~500 年の範囲である。

5. 調査の結果

調査した 58 本の指定名木を樹勢について 5 段階にまとめる、表-1 に示すとおり、さかんなもの 26 本 (45 %) と少なく、次いでにぶつっているが 17 本 (29 %)、おとろえているものと、おとろえが著しいものが 11 本 (19 %) その外風倒と回復不能が各 2 で計 4 本で、樹勢については、約半数弱が良好で、残半数については、老齢による劣悪化と台風等による物理的な影響が大きいことが伺える。

しかしながら、個体別に見ると、永年にわたる環境の影響等による障害等があり、今後の保全対策のうえから何らかの処置を必要とするものが多い。

つぎに処置の必要性について見ると、表-1 のとおり、処置を必要としないものは 10 本 (17 %) と少ない、当面必要なものと出来ればした方が良いものが 44 本 (76 %) に及ぶ、処置の内容別では最も多いのが防腐処置で、ついで支保工、客土、枝剪定等となっている。

肥培管理等は全体に通ずることであり処置の内容には含まれない。防腐処置の具体的内容は、樹幹のネクロシス、又はクサレ、腐朽による空洞化、開孔部の発生等多種多様である、樹勢と処置の必要性との関係は認められないが、今後は、処置の必要な樹が樹勢のおとろえをきたすことにつながると考えられる。

6. 考 察

調査による、58本の指定名木のうち76%の樹木が何らかの処置が必要であることがわかった。

しかしながら、処置治療になると大きな経済的負担を必要とすることになる。意識では保全、保護したい意向も、事業負担で困難なことが課題として残ることになる。行政の援助等、何かの方策が望まれるところである、本事例では調査結果を基に財政的援助の方策を目下検討中であることを附記する。

7. おわりに

調査やとりまとめに際し、助言や協力をいただいた大分市役所公園緑地課の皆さんと、緑化センター職員ならびに調査に立合を下さった指定木所有者、管理者の各位に謝意を表します。

なおこの調査は大分市の希望により、平成5年度指定名木診断調査事業で実施したものである。

表-1 指定名木診断結果表

調 査 対 象 の 木	樹勢状況						処置の必要性				備 考
	盛 ん な な も の	に ぶ つ て い る	劣 え て 著 い	劣 え が 不 要	回 復 し 能	急 に 不 可	要 す す す	し た た が	手 方 が 良 い	風 倒 が 枯	
針葉樹	11	3	5	1	1	1	-	2	5	3	1
常緑広葉樹	19	12	4	1	-	2	-	5	8	4	2
落葉広葉樹	24	8	7	4	4	1	-	12	9	2	1
特殊樹	4	3	1	-	-	-	-	1	2	1	- リラ2, ブジ, ナガバ
計	58	26	17	6	5	4	-	20	24	10	4

(※イチョウ=落葉広葉樹に含)

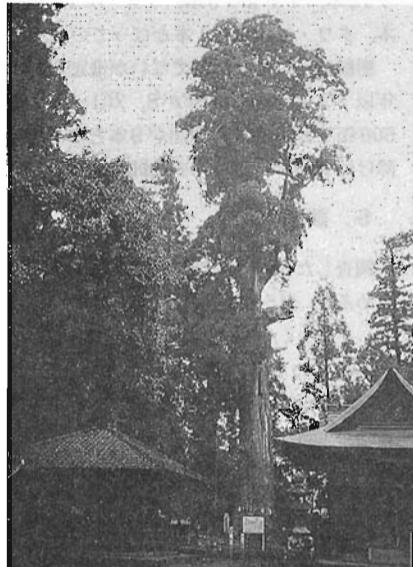


図-1 スギ指定木
指定番号 第23号

樹高 38m
幹周 750cm
樹齢 450年(推定)



図-2 クロガネモチ指定木
指定番号 第43号

樹高 23m
幹周 383cm
樹齢 800年